



JSQC ニュース

CONTENTS

- 1-トピックス 学会運営のプロセス改善
- 2-私の提言 前進すること、原点を顧みること
- 2-ルポルタージュ 第312回事業所見学会ルポ
- 3-第311回中部事業所見学会ルポ/研究会メンバー募集/3月の入会者紹介
- 4-行事案内

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

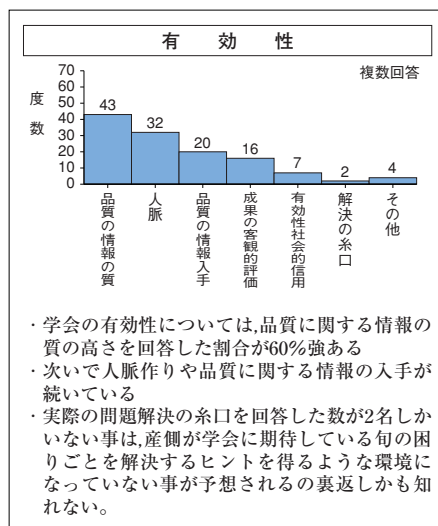
学会運営のプロセス改善—学会活動に対するアンケート調査結果の反映—

理事 永原 賢造

学会運営のプロセス改善の起点として、学会員（代表として代議員）へのアンケートを実施し、新設「総合企画委員会」での中期計画へも反映途上にある。

学会員各位が、学会にどのような期待、及び要望を持っているのかを把握して、学会運営していく事が重要であることは申し上げるまでもない。

報告が遅くなったが、昨年8~9月に、まず代議員94人を対象に、アンケート調査を実施し、67人から有効回答を頂いた。学会運営が、従来は年度毎の年度運営方針中心で運営して来ていたが、これからは学会活動にこの調査結果も参考にして、中長期計画をしっかりと



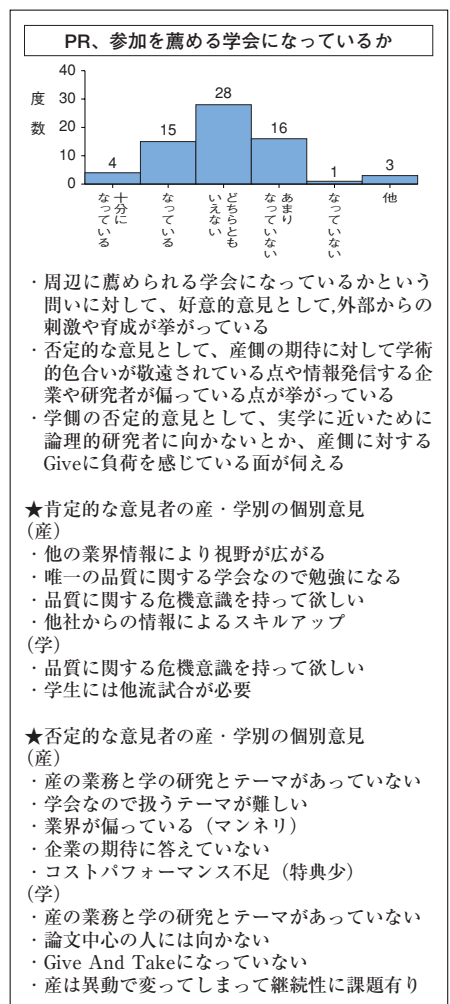
- ・学会の有効性については、品質に関する情報の質の高さを回答した割合が60%強ある
- ・次いで人脈作りや品質に関する情報の入手が続いている
- ・実際の問題解決の糸口を回答した数が2名しかない事は、産側が学会に期待している旬の困りごとを解決するヒントを得るような環境になっていない事が予想されるの裏返しかも知れない。

りと展望し、それに基づいて年度計画に落とし込み、また中期計画も毎年ローリングして行くプロセスへ変更途上にある。

アンケート調査では、10項目にわたって学会のイベント参加率、その満足度、学会が扱う領域等について調査したが、ここでは「品質管理学会への参加目的」「学会活動の有効性」及び「当学会を周辺の人々にPRし薦められるか」について概要報告をする。詳細はHP添付を参照願いたい。

なお、これらの調査結果からの改善課題として、産と学の学会に対する期待が異なっている点がある。例えば、産からは、現実に直面している問題解決に直結した事例や糸口を望み、一方学からは、研究成果のアウトプットの場になっているが、産の実態がわかりづらくなっている点もうかがえる。

これらの実態を認識し、中長期計画



- ・周辺に薦められる学会になっているかという問いに対して、好意的意見として、外部からの刺激や育成が挙がっている
- ・否定的な意見として、産側の期待に対して学術的色合いが敬遠されている点や情報発信する企業や研究者が偏っている点が挙がっている
- ・学側の否定的意見として、実学に近いために論理的研究者に向かないとか、産側に対するGiveに負荷を感じている面が伺える

★肯定的な意見者の産・学別の個別意見 (産)

- ・他の業界情報により視野が広がる
- ・唯一の品質に関する学会なので勉強になる
- ・品質に関する危機意識を持って欲しい
- ・他社からの情報によるスキルアップ

(学)

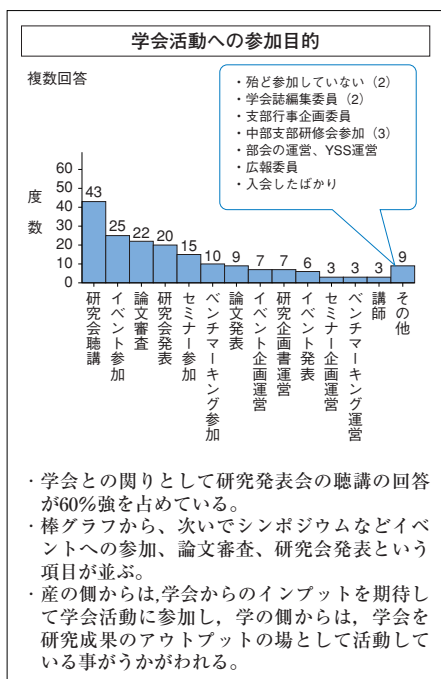
- ・品質に関する危機意識を持って欲しい
- ・学生には他流試合が必要

★否定的な意見者の産・学別の個別意見 (産)

- ・産の業務と学の研究とテーマがあっていない
- ・学会なので扱うテーマが難しい
- ・業界が偏っている (マンネリ)
- ・企業の期待に答えていない
- ・コストパフォーマンス不足 (特典少)

(学)

- ・産の業務と学の研究とテーマがあっていない
- ・論文中心の人には向かない
- ・Give And Takeになっていない
- ・産は異動で変わってしまっ継続性に課題有り



- ・殆ど参加していない (2)
 - ・学会誌編集委員 (2)
 - ・支部行事企画委員
 - ・中部支部研修会参加 (3)
 - ・部会の運営、YSS運営
 - ・広報委員
 - ・入会したばかり
- ・学会との関りとして研究発表会の聴講の回答が60%強を占めている。
 - ・棒グラフから、次いでシンポジウムなどイベントへの参加、論文審査、研究会発表という項目が並ぶ。
 - ・産の側からは、学会からのインプットを期待して学会活動に参加し、学側からは、学会を研究成果のアウトプットの場として活動している事がうかがわれる。

を立案して単年度計画に確実に落とし込むプロセスが必要との認識から、「総合企画委員会」を常設委員会として設置して、本年35年度からの向こう3年間の中長期計画を立案している。

キーは、産学の一層の連携による日本の国際競争力に貢献する学会活動である。その骨子である「Qの確保」「Qの展開」「Qの創造」に関する中期計画の概要は別の機会に紹介したい。

● 私 の 提 言 ●

前進すること、原点を顧みること

玉川大学 経営学部 講師 永井 一志



先日、同じ学科に属する法律学の教授と話をした。最近ではhow toを意識した文献が多く、原点となる理論や、これが生み出された背

景が書かれているものがなくなっている。寂しい気持ちになるというのが彼の意見であった。確かに、書店に並んでいる文献を見渡すと、彼の主張が決して間違いではないことに気付く。

身近な例として、1元配置実験の講義で平方和の分解について話をする場面を考えよう。この内容を受講生は非常に嫌う。これに対して、手順立てた計算方法を中心に話し、演習問題で理

解度を確認すると、理解できたと喜ばれる。いわゆるhow toが受け入れられるのである。しかし、手順だけでは分散分析表がどのような理屈で作られるのかの理解には至らない。最終的には自身で再度勉強をしなければならなくなる。断片的なhow toだけでは、応用が利かなくなるのである。

また、筆者が研究しているQFDについても、品質表を作ることがQFDを実施することと誤解している人が少なくないことに驚く。どのような二元表を作成していけばよいかを考えるのが非常に難しいという声をよく聞くが、QFDという概念がどのような時代背景において、なぜ必要であったのかという原点を理解すれば、このような事態にはならないのであ

ろう。これもhow toを重んじて来た結果ではないかと考える。

我々が何か新しい研究を進めていく際には、必ずその基礎となる研究が存在する。何もないところから新しいものを作り出すのは非常に困難である。つまり、原点を顧みることと、前進することは表裏一体であって、どちらも欠かすことのできない要素なのである。時代や環境の変化に対応するために、何事も前進することが求められているが、しっかりと原点を理解することが重要である。最近痛感するのは、私のような若輩者でも理論の原点を理解できるようになりファレンスがしっかりと残されているとあり難い。貴重な文献が余りにも少なくなってきた。

近年では、企業も教育を熱心に行うように変わりつつある。how toと原点回帰のバランスを保ちつつ、物事の本質を理解しなければ前進はあり得ないと自分に言い聞かせている。提言というには程遠い提言になってしまったことをお許しいただきたい。

第312回 事業所見学会 ルポ

高俊興業(株) 「東京臨海エコ・プラント」

第312回事業所見学会は2006年3月17日、東京湾埋立地羽田空港に隣接する、城南島の、高俊興業(株)「東京臨海エコ・プラント」で開催された。強風のために一時鉄路がストップする中、15名の参加があった。

当施設は国の都市再生プロジェクトの一環として首都圏の産業廃棄物の適正処理を目指した東京都のスーパーエコタウン事業に位置づけられ、2004年12月より稼動開始した、地球環境を守る最新鋭産業廃棄物の中間処理施設である。

見学会当日は、高俊興業(株)常務取締役・葛西正敏様と営業副本部長法務適正推進室長・村田光大實様にご案内戴き、日頃接する事の出来ない産業廃棄物の適正処理最前線をつぶさに見学する事が出来た。

見学では、首都圏における産業廃棄物処理の現状と、施設概要説明の後に、施設全般の見学を1時間30分程

実施した。

当施設の特徴は、収集された、主として東京都内の建設現場と建物解体現場で発生する建設系産業廃棄物の屋内型の処理施設である。施設では、高精度高選別の処理を行い、サーマルリサイクルを含め重量ベースで90%以上のリサイクル率を確保していた。その結果、最終処分量、単純焼却を限りなく減らし、再生原料として広く、建設資材市場に販売され、環境保全に貢献出来るよう努力されている。施設内では、様々な素材別の専用ラインを組み合わせた最先端の処理技術を駆使した大規模な産業廃棄物の中間処理設備に接する事が出来た。

見学を通じて参加者一同、日ごろ我々が目にしないところで、積極的に、地球環境保全に向けた活動を行っている工場従業員の方々の働きに敬意を表すると共に、産業廃棄物処理には多くの労力とエネルギーとコストが必要であることを改めて実感した一日であった。

池田 晃三 (株)マネジメントシステム評価センター)

第311回中部 事業所見学会 ルポ

富士電機リテイルシステムズ(株) 三重工場

さる平成18年2月23日(木)に第311回事業所見学会(中部支部第77回)が、三重県四日市市の富士電機リテイルシステムズ(株)三重工場にて開催された。テーマを『ユーザーニーズを的確に捉えた自動販売機の商品開発』とし、38名が参加した。

三重工場は1944年にモーター・家電で創業を開始。自動販売機(以下自販機)は1969年から生産を開始した。缶、ペットボトルの自販機やスーパーマーケットなどで使われている冷凍、冷蔵ショーケースを製造している。自販機は年間16万台余も生産する一大製造拠点で国内トップシェアを誇っている。

また、業界に先駆けて認証取得したISO9001、通産省グッドデザイン賞、「優秀者エネルギー機器」日本機械工業連合会会長賞等々の受賞は開発、造りこみ、検査などにおける技術レベルの高さを推し量る証といえる。

工場見学の前に、企画課 山本課長様より会社紹介に

続き、進化を続ける最新型の自販機の商品紹介、徹底した品質管理、独自の技術で取組まれている活動など、丁寧に説明を頂いた。また、省資源化、リサイクル化にも、積極的に取組まれており「自販機の消費電力については5年前と比較して半分ですよ」と強調された。

工場見学ではFCT 内山様、魚見様が自販機の完成までの工程を材料受入れから、アンコイラー→曲げ加工→塗装→組み立て→検査→梱包・出荷について詳細に案内して頂いた。参加者は毎日お世話になっている自販機の内側がどのような構造になっているのか大変興味深く見学されていた。

見学後の質疑応答では多くの質問があり、その中の一つに「これからの自販機について?」の問いに「差別化した商品開発」、具体的には女性を意識した景観重視、キャッシュレス化、大阪弁で音声対応するなど顧客を引き付ける「楽しい自販機」の開発に取り組んでいると説明された。

また、自販機にもIT化が進んでおり、「夢の自販機」の開発に向けて高いモチベーションと独自の技術力で取組まれているのには大変感銘を受けた。

広村 幹雄(トヨタ紡織(株))

新規研究会メンバー募集

管理図実践研究会

管理図とは、本来品質管理の基本的な道具であると考えられるにもかかわらず、多くの現場で活用されなくなっているのではないかと懸念しております。その理由として、「1. 現場での運用の仕組みが整っていない。2. 複雑化している現在の現場で真に役に立つ管理図が提案されていない。3. 役に立つように教えていない。」の三点があげられるのではないのでしょうか。そして、それらが、多くの製造現場で現場力が低下し、当たり前のことが当たり前実施されずに多くの品質トラブルを招いてしまうようになった原因のひとつではないのでしょうか。

そこで、本研究会では、この品質管理の根源的なツールをもう一度見直して、真に今日の現場で役立つにはどのようにすればよいかを実践的に研究していきたいと企画しています。

管理図を現場の日常管理に活用し成果をあげている方、成果をあげようと努力されている方、あるいは、成果が上がらずに困っている方にご参加いただければ幸いです。

主 査：安藤 之裕(技術士)

開催日：第1回 2006年6月8日(木) 18時~20時

場 所：日本科学技術連盟 東高円寺ビル

申込方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記の上、FAXまたはE-Mail (office@jsqc.org)にてお申し込みください。

なお、申し込みいただくにあたり、現在の業務概要と管理図に対する思いを数行付け加えていただければ幸いです。

定 員：20名

2006年3月の 入会者紹介

2006年3月3日の理事会において、下記の通り正会員22名、準会員1名の入会が承認されました。

(正会員22名) ○的井 英雄(日本科学技術連盟) ○藤井 伸司(敬仁会今里胃腸病院) ○方 懋(MIC's B・P) ○緒方 健助(EX-NEK) ○原

野 宏(カルソニックカンセイ) ○渡邊 由子(ビジネス教育研究所) ○坂尾 知彦(Darmstadt University of Technology) ○近藤 賢・新木 純・足立 俊行・新井 俊弘・寺前 勝・大谷 益央・武田 敏郎・小原 光雅・加藤 裕司・岩井 清行(積水化学工業) ○坂田 和則(日本規格総合研究所) ○阿部 忠(ホッカイエムアイシー) ○嶋 和雄(東レ) ○平岡 一則

(サレジオ工業高等専門学校) ○原和男(トーハン)

(準会員1名) 北村 尚久(東京工業大学)

正 会 員：2976名

準 会 員：101名

賛助会員：170社197口

公共会員：22口

行事案内

●第30回研究発表会（本部）

日時：2006年5月26日(金)・27日(土)
会場：日本科学技術連盟・千駄ヶ谷本部
プログラム：

- ・5月26日(金)
10：00～11：15
チュートリアルセッションA
「最近のQFDの潮流と動向」
赤尾洋二氏（山形大学）
- 11：25～12：40
チュートリアルセッションB
「キャノン電子における人間尊重の経営」
酒巻久氏（キャノン電子株）
- 13：30～18：20 研究発表会 3会場
18：30～20：00 懇親会

・5月27日(土)
10：00～17：50 研究発表会 5会場
参加費：

- チュートリアルセッション・研究発表会
会員6,500円 非会員8,500円
準会員3,000円 一般学生4,000円
- 研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)
会員4,500円 非会員6,500円
準会員2,000円 一般学生3,000円
- 懇親会
会員・非会員 4,000円
準会員・一般学生2,000円

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第309回事業所見学（関西）

テーマ：ブリヂストン彦根工場の品質向上活動について

日時：2006年6月15日(金)13:00～16:30
見学先：(株)ブリヂストン 彦根工場
定員：30名（先着順）
参加費：会員2,500円 準会員1,500円
非会員3,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●医療のための質マネジメント基礎講座（医療の質・安全部会）

一月1回一日2回、計6回開催一
会場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部
1号館3階講堂

プログラム：

第5回 6月24日(土)9：30～12：30
医療のためのエラープルーフ入門

第6回 6月24日(土)13：30～16：30
KYT(危険予知トレーニング)と5S
定員：150名
詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：部会事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

E-mail：secretary@tqm.mgmt.waseda.ac.jp
部会事務局 加藤・永松
FAX：03-3232-9780
TEL：03-5286-3304
(早稲田大学理工学部経営システム工学科 棟近研究室)

●ISO9000s審査員のためのTQM基礎講座（本部）

一月1回一日2回、計6回開催・会員優先一
時間：毎回9：30～12：30／13：30～16：30
各々講義1時間30分、演習1時間、質疑
※CPDの証明時間は3時間です。

会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル2階講堂

プログラム：昨年と同様です。

第1回 7月22日(土)午前
TQMのフレームワークと基本原則
担当：中條武志氏（中央大学）

第2回 7月22日(土)午後
TQMの活動要素(1) 一方針管理と改善活動
担当：村川賢司氏(前田建設工業株)

第3回 8月26日(土)午前
TQMの活動要素(2) 一品質保証と新製品開発
担当：棟近雅彦氏（早稲田大学）

第4回 8月26日(土)午後
TQMの活動要素(3) 一日常管理と標準化
担当：平林良人氏（株テクノファ）

第5回 9月16日(土)午前
TQMのための手法 一SQCとその活用
担当：山田 秀氏（筑波大学）

第6回 9月16日(土)午後
標準化をめぐる動向
担当：矢野友三郎氏（経済産業省）

定員：毎回先着100名
参加費：会員4,000円（各回）
(6回一括申込：20,000円)
非会員8,000円（各回）
申込締切：2006年7月14日(金)
(各回とも締切は開催の1週間前)

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第32回研究発表会（中部）

日時：2006年8月30日(水)10:40～16:40
会場：名古屋工業大学

申込締切：

参加申込締切：8月23日(水)

参加申込方法：

6月送付予定の参加申込書にご記入の上、中部事務局までお申し込みください。

●第31回研究発表会（関西）

日時：2006年9月15日(金)13:00～17:00
会場：大阪・天満研修センター

申込締切：

発表申込締切：6月28日(火)
200字程度の発表要旨を添えてお申し込みください。

発表原稿締切：8月28日(月)

参加申込については改めてご連絡いたします。

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

(社)日本品質管理学会

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
白川ビル別館

(財)日本規格協会 名古屋支部内

(社)日本品質管理学会 中部支部

TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25
(財)日本科学技術連盟 大阪事務所内

(社)日本品質管理学会 関西支部

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org